

小 論 文

(医 学 部)

— 2月10日 —

【課題】

以下の文章を読んで、「人生の成功は、才能によるものか？運なのか？」自分の考えを500字以内で述べてください。

大リーグで大谷翔平選手が、将棋界では藤井聡太六段^{*}が、大活躍です。成功をつかみ取るのは、彼らのような優れた才能を持つ人だけなのでしょうか。

世の中は実力主義。成功するかどうかは、その人の資質、たとえば知性や技能、努力、勤勉などによると考えられがちです。

才能があれば成功するのでしょうか。

明治時代の歌人石川啄木に「友がみなわれよりえらく見ゆる日よ／花を買ひ来て／妻としたしむ」という歌があります。才能があっても、うまくいくとは限らないようです。

◆偶然の役割

では、成功している人はみな、優秀な人たちなのでしょうか。

米科学技術雑誌「MITテクノロジーレビュー」の電子版がイタリア・カタニア大学のプルチーノ准教授らの論文を紹介していました。さまざまな人生をシミュレーションした研究で、タイトルは「才能と運 成功と失敗における偶然の役割」です。

シミュレーションはこうです。技術や知能、能力を平均よりも高く持っている人やそうでない人、平均的な人が、四十年間の勤務生活の中でランダムに幸運な出来事や不運な出来事に出会うと、資産がどのように増減するかを調べる。実験を繰り返したが、結果は毎回、現実世界と同じように上位20%の人が資産全体の80%を占めた。

上位20%に入ったのは「たいていの場合、最も才能のある人ではなかった。遠く及ばない人も入っていた」。一方、それぞれの幸運な出来事と不運な出来事の数を比較すると、最も幸運な人たちが上位20%に入っていた。資産の少ない人は最も不運な人だった。

結論は「最も裕福な人々は（ある程度の才能はあるものの）最も才能のある人ではなく、最も幸運だったのだ」でした。

途中省略

◆前髪をつかめ

そうそう、コンピューターシミュレーションは数値化しやすい資産で人生の成功を表していました。実際の人生では、お金がすべてではありません。「成功」の物差しは人によって違います。

今春、就職や入学した人の中には「友がみな…」と歌った啄木のような気分の若者もいるかもしれません。「チャンスの神は前髪しかない。前髪をつかめ」といいます。待っているだけではだめなのです。幸運を逃さないように、顔を上げて前を見ましょう。

(出典：2018年5月6日 東京新聞社説より 一部改変)

注釈) *：2018年5月6日現在